

横浜市インフルエンザ流行情報 9号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

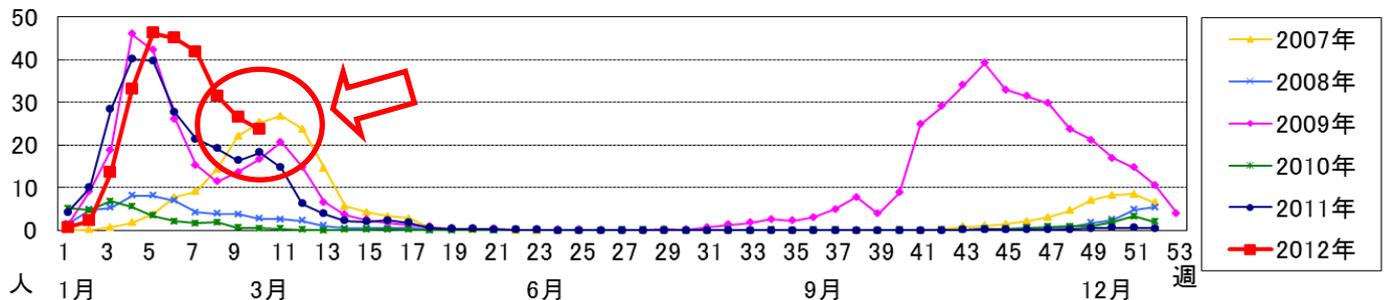
迅速検査キット結果で、B型が全体の約7割を占めています。

【概況】

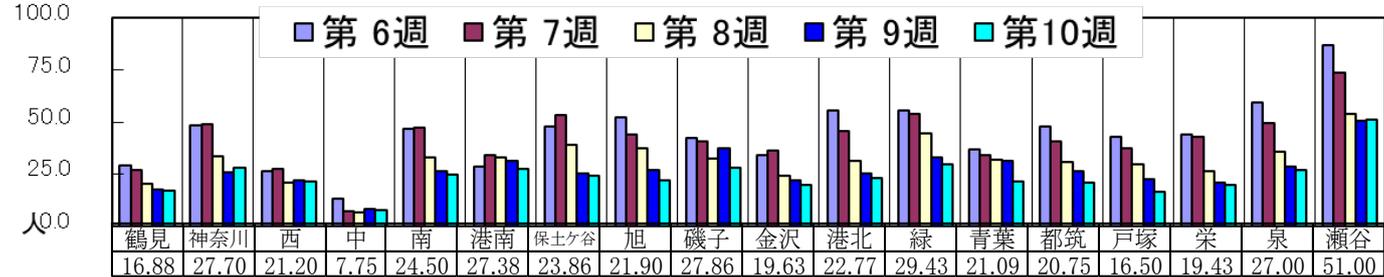
第10週(3月5日～3月11日)に定点^{※1}あたり23.60となり、減少傾向がやや鈍化しています。迅速キットの結果では、B型の報告数が増加(全体の約7割がB型)しており、B型の流行がインフルエンザ全体の減少の鈍化に影響していると考えられます。A型に感染した人でもB型に感染する恐れがあるため、予防対策を引き続き徹底^{※2}しましょう。また、インフルエンザに罹った時は、処方された薬を症状が無くなっても最後まで飲み、咳エチケットを守り、しっかり休みましょう。

※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。
 ※2 インフルエンザ予防チラン <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

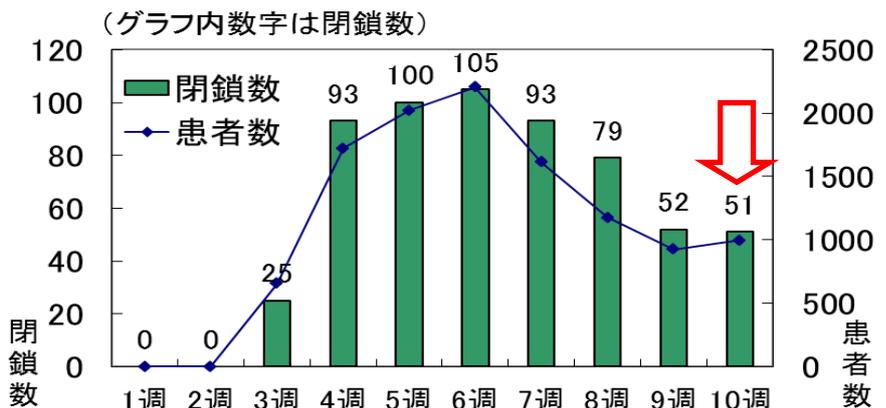
1 市内流行状況: 第10週では定点あたり23.60と、やや減少傾向が鈍化しています。



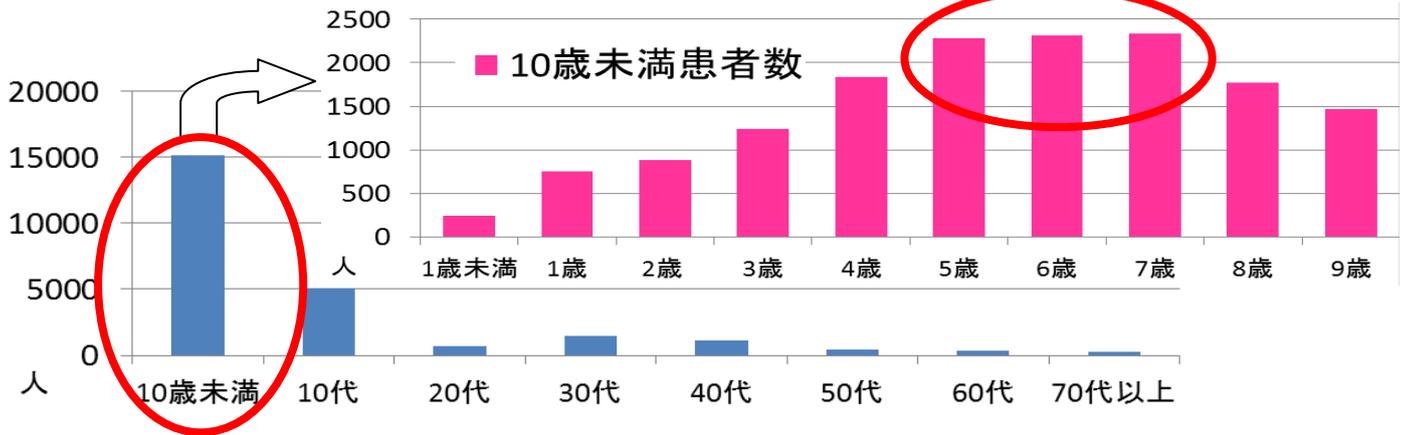
2 区別流行状況: 瀬谷区で51.0と、高い流行が続いています。



3 市内学級閉鎖等状況: 第6週以降減少傾向が続いていましたが、第10週では第9週からほぼ横ばい状態です。第10週の施設種別では多い順に、小学校45件、幼稚園4件、保育所2件でした。(※追加報告の影響で、前回の流行情報とグラフの数字が異なります。)

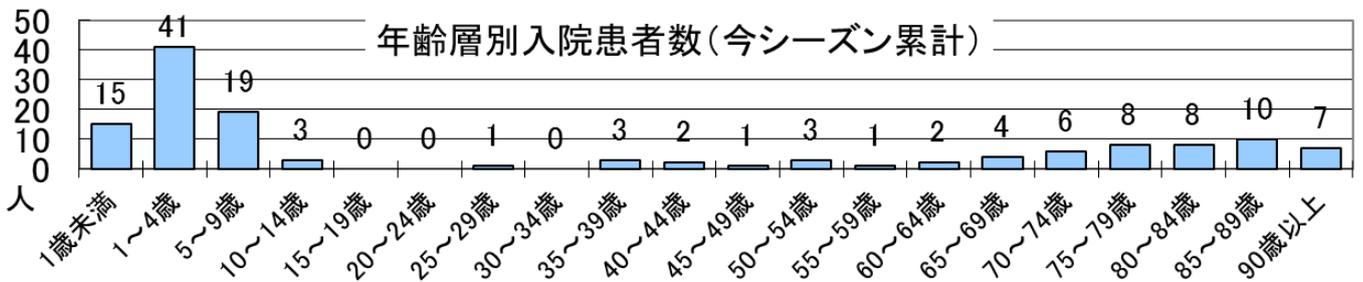


4 年齢層別集計:第6週から第10週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~7歳で多くなっていました。

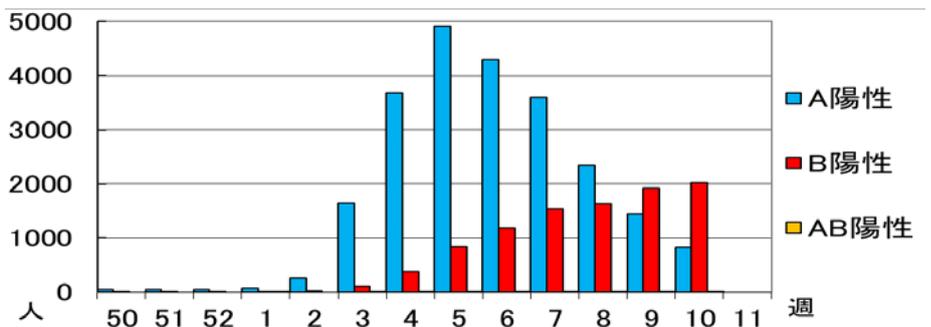


5 入院サーベランス:市内基幹定点^{※3}医療機関における、インフルエンザの年齢層別入院患者数の集計です。10歳未満の入院が多く、次に65歳以上となっています。

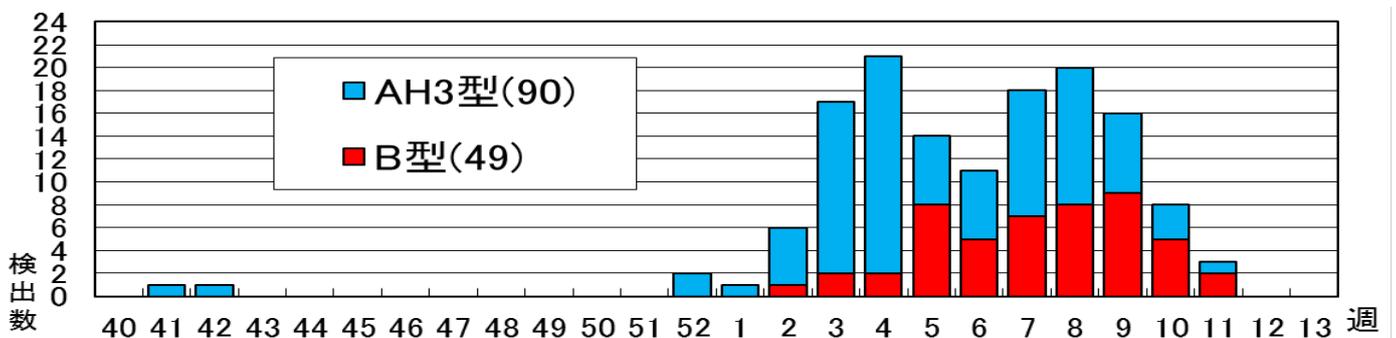
※3 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果:市内患者定点医療機関における、迅速キットによる型別の報告数では、A型が減少する一方、B型が増加しています。迅速キットで判定された型のうち、第10週では71.0%がB型となっています。



7 病原体検出状況:市内定点医療機関から139件検出されましたが、AH3型90件(64.7%)、B型49件(35.3%)でした。



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

同 検査研究課ウイルス担当

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9816

TEL 045(754)9804